

福祉新聞 2010 年（平成 22 年）11 月 1 日

< 奄美豪雨災害 GH 利用者 2 人水死 >

8 福祉施設で被害

10 月 20 日から 21 日にかけて鹿児島県奄美地方であった記録的豪雨で、奄美市のグループホーム「わだつみ苑」に濁流が流れ込み、女性利用者 2 人が水死した。

奄美地方を襲った記録的豪雨は、死者 3 人、負傷者 2 人、家屋の全半壊 11 棟・一部損壊 16 棟、床上・床下浸水 1502 棟の大きな被害を出した（鹿児島県発表、10 月 27 日午後 9 時現在）。被害が大きかった奄美市、龍郷町、大和村に災害救助法が適用された。

福祉施設は 8 カ所で床上浸水などの被害があった（内閣府発表、10 月 27 日午後 10 時半現在）。このうち奄美市住用町にあるグループホーム「わだつみ苑」では、20 日の昼過ぎに施設内を濁流が襲い、90 歳と 87 歳の女性利用者 2 人が水死した。

24 日に記者会見した岡良子・同ホーム管理者らによると、当時、施設内には 9 人の利用者がいた。昼前に役場職員と思われる人から避難した方が良いと提案されたが、歩行可能な利用者が 3 人だけで、小雨が降っていたこともあり、施設内にとどまった方が良いと判断し、避難しなかったという。しかしその後、外の川が急激に増水。施設内に濁流が流れ込み、職員が利用者に何かにつかまっているよう指示したが、カーテンレールに手をかけていた利用者 2 人の姿が消えていたという。

また、同市では特別養護老人ホーム「住用の園」の利用者や職員 110 人余りが冠水のために施設内に取り残される事態となったが、21 日未明までに消防署員らに全員救助された。

記録的豪雨から 1 週間余りがたち、被災地では復旧作業が本格化。3 市町村・11 カ所に設置された避難所での支援活動も続けられている。

被災者支援のため、奄美市社会福祉協議会と龍郷町社協は 23 日、災害ボランティアセンターを設置し、支援活動を開始した。

豪雨以降初めて青空が広がった 24 日には、特に被害が大きかった奄美市内の住宅街に被災規模が小さかった市民や中学生ら約 50 人が集まり、ごみや水浸しになった布団・家具などの後片付けを行った。参加した市立中学野球部の生徒は「うちの近所はあまり被害を受けなかったが、こっちに来て初めて大変だったんだと分かった」などと話し、他の部員 20 人とともに汗を流した。

一方、共同募金会や日本赤十字社は、被災者支援のための義援金募集を始めた。受け付けは 11 月 30 日まで。送金先は次の通り。

奄美地方大雨災害義援金

共同募金会〔銀行振込〕鹿児島銀行県庁支店 普通 1274171

社会福祉法人鹿児島県共同募金会

日本赤十字社〔銀行振込〕鹿児島銀行鴨池支店 普通 664155

日本赤十字社鹿児島県支部 支部長 伊藤祐一郎



部屋の片付けを手伝うボランティアら＝時事